

# 3年経過、認知度を調査

## 市と「かたつむり で行こう会」保健事業や活動充実へ

市民の健康づくり行動計画「SOS健康づくり計画」の始動から3年を経過し、市と運営委員会「かたつむりで行こう会」（瀬戸信夫会長）は、中間評価に向けた市民アンケートを開始した。

15歳以上を対象に約2000部を配布。計画を策定した市健康づくり推進協議会（河村芳高会長、18人）の委員の協力を得ながら、年代の偏りを抑えるように配っている。

健康づくり計画は、健康増進法（2002年8月公布）に基づき、市が「日本一健康なまちづくり」を目指して09年3月に策定。08年度を初年度とし、5年後の今年度に「中間評価を行い、来年度以降の事業を決定する」としていた。

計画の策定時にも市民アンケートを実施。この時は3254人から回答があり、既存のサービスや施設を知らない、情報を得にくいことへの不安感が浮き

彫りになった。また、社会参加したいと思っても、その機会や、自分に合った活動の場を見つけられない人が多いことも分かり、「情報」と「居場所・役立ち感」という要素を導いた。

課題解決へ、SOS健康・情報センター（中央駅）とステーション（地域拠点駅）を設置するなど、集計結果が計画に反映されている。

市健康増進課によると、評価指標の一つであるボランティア登録数は現在41人。ステーションの登録数は94カ所となっている。

アンケートの配布数自体は今回少ないが、全41項目の設問を用意。より詳細に、普段

までに回収。集計後、市活動に反映したい市の保健事業や、かたつむりで「行こう会」の部

市が公表した昨年度

の事務事業評価によると、健康づくり計画推進事業の課題は「ステーションはハード面での登録しかなく、ソフト面での登録がない」ということで、改善策として「ソフト面での登録を増やしていくよう、ステーションの役割を明確にし、PRを行う」と挙げている。

（岩村）